

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100101		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家沼津		
所在地	静岡県沼津市大塚1127-3		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症(コロナ)禍において、ご家族やボランティアの方々との関わりが制限され、寂しい思いをされている利用者様達の「あなたに伝えるメッセージ」と称し笑顔の葉書を送らせて頂いた。2枚の画用紙に「しあわせ」「まあまあ」とそれぞれ書き、利用者様本人に選んで頂くと、一名以外「しあわせ」を持たれ、ご家族に気持ちを伝えました。また、介護予防運動指導員の指導のもと、ADL低下及びリスクを最小限に抑えつつ、車椅子から手引き歩行移行に力を入れた。行事や壁面など工夫して、小さいながらも四季を感じ得よう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvCd=2291100101-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でも感染症対策を行い家族の面会を継続し、職員会議も継続して対面で行っている。外出ができない中、介護職員が中心になり、利用者それぞれの個別メニューで筋力強化を図り、車椅子から手引き歩行に改善した事例もある。また、食事のメニューをイベントの時に選んでもらったり、おやつレクやメイクレクなどを行って気分転換を図るなどの工夫を心掛けている。事故報告やヒヤリハットはケア会議で検証し次に繋げるように話し合ったり、研修後に職員は必ず感想と内容を記入し、更に次の研修内容の希望を記入して取りまとめ全職員に回覧するなど、情報の共有と職員の意欲を引き出している。職員は年齢層に幅があり、気づく視点も様々でお互いにわからないことは気兼ねなく聞ける関係が構築されている。管理者と計画作成者は事業所のサービスの質を向上させていく事に意欲的に取り組んでいるので、近隣のグループホームからも信頼が厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人・そっと寄り添う」の理念を、誰もが目にする場所に掲げ、勤務職員は、申し送りの際、唱和し、一日の業務にあたっている。	理念は事務所と各フロアに掲示しており、職員は申し送り時に唱和している。理念に基づいて毎月の目標を感染症関係で1つ、その他で1つ決め月の会議で振り返り、継続か新規にするか検討している。反省はまとめて回覧している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、施設前を通る人々に挨拶をし、楽しみながら交流を図っている。敬老会、文化祭など欠かさず事なく参加している。現在、コロナ禍の為、行事が中止となり参加できないが、文化祭、出品に向けて少しずつ制作を行っている。	自治会に加入し回覧板で地域の状況を把握している。コロナ以前は小学生の福祉体験や地域の敬老会や文化祭に参加していたが、行事が中止となり現在は、次の文化祭にむけて貼り絵を作成している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校生徒を受け入れ、学習の場として提供している。生徒に限らず、先生も10年目の職場研修に提供し、施設の果たしている役割や職種に理解を深めてもらっている。現在、コロナ禍の為交流を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、ご指導頂いた案件は、即施設のケア会議で話し合い改善、質の向上に努めている。また、クレームがあった際も本部をも巻き込み情報の開示をしている。運営推進会議は、コロナ禍の現在、聞き取り会議にて行われている。	運営推進会議の前に資料を作成し意見を返信してもらい、取りまとめ「のどか通信」と一緒に参加予定者に郵送している。家族には議事録と通信を送付している。意見には応援メッセージや改善提案があり、職員会議で取り上げサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を届けながら、担当職員と交流を図り、わからないことは、いつでも聞くことができる関係が築かれている。地域包括支援センターや他事業所との交流、指導を頂いている。近隣CM、事業所との意見交換を行っている。	行政とはコロナ対策などの疑問点を聞いたり、電話や訪問により常に相談等ができる協力関係を築いている。地域包括支援センターは入居の事などで意見交換をしている。生活保護の方を受け入れているので、担当職員と相談や意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の入出口に鈴をつけ、常時開放されている。施設内は、身体拘束ゼロを掲示し、勉強会でも拘束・虐待について学び、月目標の振り返りと共に、スピーチロックなど振り返りを行い、各自、自己分析し報告している。	マニュアルを今年6月に改正し、委員会メンバーは、管理者、担当者、計画作成者、看護師、第3者として自治会長や民生委員、介護相談員等で運営推進会議時に行われ、議事録は職員に回覧している。研修はスピーチロックについて毎月、虐待について総合的に学ぶ機会は年に1回行われている。	

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の課題に設け、月目標にあげ、一人一人職員に自覚してもらい、毎月できているか振り返りを行っている。NGワード、スピーチロックなどお互いに注意し合える環境を作っている。何故を考え、職員の想いを受け止め、連携、協力の中、利用者様中心にケアを行えるように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度など研修に参加した資料を基に、またDVDを基に勉強会で取り入れている。必要な利用者様は活用してきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、管理者、ケアマネージャー、NSが立ち会い、お客様・ご家族様・身元引受人・それに準ずる方に同席頂き、十分な時間を設けて理解して頂いている。また、疑問点や困りごとの対応は、相談窓口にて説明し問題解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでは要望、意見をお聞きし、結果も開示している。又、年に1回お客様満足度アンケートをご家族様に送り、無記名にて本部で集め、良い点や悪い点など聞き取り、くったくのない意見をお聞きし、改善、励みとし現場に反映させている。	コロナ禍で家族との面会を制限しているの で、通信の写真を増やし、2か月に1度送付している。事故発生時には家族へすぐに連絡を入れる体制作りがされ、コロナ禍でも関係性が途切れないよう感染対策をして面会を継続し、その都度意見を伺っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のケアミーティングにて意見や疑問点を述べる機会を設けている。全職員のアンケートの実施や年2回の人事考課の際意見を述べる欄などを設けている。また管理者は運営本部に向け職員の相談ごとなど報告を入れ、答えをもらっている。職員一人一人と管理者と面談を行い想いを傾聴し反映させている。	年に2回管理者と職員は個別面談を行っている。管理者は日頃から職員の様子を注視して、声掛けするようにしている。その際、改善された点などを正しく評価し資格等目指しているものについては支援するようにしている。計画作成者も管理者をサポートし、メールで職員の相談を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、仕事における努力や提案、それによってもたされた成果など自己アピールの機会を設けている。変化する家庭環境・身体状況に応じて、就業形態の変更の申請など働きやすい環境整備は整っている。現状、職員ファーストを掲げ、今年度から誕生日に花束、10年以上勤務者に旅行券を贈呈している。誕生日、年始リフレッシュ休暇など新たに設けられた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時研修、1年・2年目研修、リーダー研修、管理者研修など本社主催の研修を年間で計画しており、必要に応じて外部研修も積極的に参加できる体制は整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加しネットワーク作りを行っている。現在、リモート会議、メールなど活用している。また、事業所の運営推進会議などの議事録に目を通し、お互いの事業所での情報交換を行い、介護スキル向上(気づき)に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様の要望、意向を受け、ケアプランの原案を作成している。ご本人を追い、ケア会議など職員間で話し合い、ご本人の意向を反映できるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族様の要望を受けつつ、ケアプランの原案を作成している。共に生活しながら見直し、利用者様の意向を反映できるプランづくりを心がけている。ご家族様より生活歴や趣味などお聞きし施設での生活に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にフェースシート・入居前情報・面談記録を参考に、入居時に受ける不安や家族の心配事を解決できるようケアプランに取り入れ原案を作成している。共感と傾聴を重視したケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞き取りながら、実現できる体制を整えている。また運営理念にもあわせてように「共に歩む」を心がけ、一緒に洗濯をたたんだり、器を拭いたり、リネンをセットしたり行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	けしてどんな状況であろうとも家族の面会を止めることはせず、利用者様に孤独を感じさせないよう努めている。家族は、利用者様にとってかけがいのないものであることをご家族様に理解していただき、ご家族、職員と些細なことも共有しお互いに支え合っている。コロナ禍において、お墓参り、結婚式などご家族の要望に添い、その後のサポートも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナ禍にて中止となったが、地域の敬老会や文化祭など参加して頂いたり、ご家族から要望がない限り、面会の制限は設けず、どなたでもご本人に会いに来れる環境になっている。	コロナ前は地域の行事に参加したり近隣の住民と馴染みの関係になっていた。ボランティアの訪問もあり、近くに商店があるので日頃から買い物に出かけていた。最近家族の希望で利用者が法事や結婚式に出かける支援を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細なトラブルは職員が間に入り、問題解決に努めている。物作りや大勢で行うレクリエーションなど提供し、利用者様同士が関わり、支え合うよう支援している。生活の場なので、コミュニケーション(あいさつ)などきっかけ作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで通り、死亡退去されたご家族様には、ホームでの日々の生活の写真を添えたり、グリーンケアも含めて丁寧にお話を伺っている。病気による退去の場合は、面会や退去先の支援を行うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のできる利用者様の要望はなるべく受け入れ、日常生活の中でご本人に決めて頂き、柔軟に対応している。発語や自分の想いを伝えられない利用者にはアイコンタクトやしぐさなどから想いをくみ取るように努力し、ご家族様や職員から情報を収集している。	職員は日頃から傾聴に力を入れ、利用者の様子を観察し変化に気づき察知できるよう、表情をよく見るようにしている。管理者は会議で様々な現象で利用者の意向をくみ取れるような視点について話している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より担当ケアマネやご家族からの聞き取りをさせていただきながら、趣味、嗜好の把握に努めている。時にふれ昔の暮らしなど聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化や発した言葉など個々の介護記録に残し、業務日報や気づきノートに記録し、職員の情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を毎月開催し、看護師も交え、現状の問題点をあぶり出し、個々のケアプランの確認、モニタリングに反映させている。ご本人、ご家族様に説明し、介護計画は個々のファイルに入れ、職員が確認できるようにしている。	毎月ユニット全員の利用者をカンファレンスを兼ねてケア会議で取り上げ、項目をチェックしている。計画作成者はケア会議の議事録やカンファレンスを考慮しモニタリングを作成して医師などの意見を聞いて介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子発語など個人の介護記録に残し、特記事項など、業務日報や気づきノートに記録し、情報の共有に努めている。1回/月のケア会議にあげ介護計画の見直しをしている。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに固定せず、柔軟に変わる変化を見逃さず、ケア会議に持ち寄り、見直しをし、支援に結びつけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、今回はあまり協力を得ることはできなかったが、良い天気の日など他者との関りを最小限にし、外出などの支援を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による毎月2回の往診を受け、健康管理、病気などの早期発見に努めている。個別往診時、体調の変化のある方もすぐに対応していただき、Dr.に適切な指導を頂いている。必要に応じて、施設看護師が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者全員が月に2回協力医の往診を受けている。協力医は週に1~2回往診に来ており、内科と整形外科、入院施設があり24時間オンコールで医療連携がとれている。常勤の看護師がいて、他科受診には看護師が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎朝同じ時間帯にバイタル測定を行い、看護師は申し送りなどで変化など確認し、その旨HPNS.及びDr.に報告を入れて情報を共有し、指示を現場に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設での情報を提供し、連携室と密に連絡を取り合い、病棟NS.から看護師がTELなどで状況報告を受け、退院前カンファレンスに参加できる時は参加している。状況説明、注意事項、見直し等聞き情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会社共有のターミナルケアマニュアルを活用し、早い段階から協力医、家族と話をもち連携をとっている。職員は看取りやグリーフケアなど勉強会を通し学んでいる。ご家族様には、気持ちの変化に応じてその都度柔軟に対応していく旨をターミナル宣言書を頂く際、言葉を添えて納得頂いている。ターミナル宣言書は年に1回確認をご家族様、ご本人に行っている。	入居時に「ターミナル宣言書」に記入してもらい、ご家族の気持ちに寄り添いながら毎年更新している。協力医と看護師が連携して重度化の対応にあたっている。終末期のケアはベテランと新人の職員がペアになり対応し、年に1回看取りの研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社共有の急変・事故対策マニュアルが職員全員だれもが目にできるところに置いてあり、看護師、管理者、リーダーとだれもが対応できるよう実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の防災訓練、風水害の訓練を行い、GHに近い職員より連絡網を作成し、早期対応を心がけている。	今年度は地震から火災で防災訓練を行い、通報訓練は経験が少ない職員が担当した。10月に水害が発生し、実際の問題点が明確になり今後活かせる課題も確認する事ができた。前回の外部評価で指摘された備蓄は見直し、台帳も作成されている。	夜間想定訓練は行われていないので想定を職員で考え、実際に訓練を行うよう望みます。停電対策についても法人で話し合う機会をつくれるよう希望します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、職員全員に個人情報に関する取り扱いの同意書を説明、サインをもらっている。介助中の声かけ、特に排泄・入浴時には個人のプライバシーを損ねない関わりを持つように職員に指導している。	本人、家族より個人情報に関する承諾を得ている。不適切ケア、尊厳、スピーチロック等の研修は継続して行い、職員同士互いに注意し合い、良い点は褒めている。言葉かけは管理者やケアマネジャー看護師が特に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の流れの中、体操・レクリエーションなどある程度予定は立てているが、決定は個人に任せている。ご本人の希望など伺い要望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな行事などや体操・物づくりは、極力共に参加して頂くが、もらえるように関わりをもつものの、個人のペースを尊重して希望、拒否があれば、要望をかなえられるような支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで着目されていたお気に入りの衣類を持参して頂き、入浴時に何を着るかを一緒に考え用意をしている。起床時、洗面後、髪に各自櫛を入れて頂く。化粧などし、年に2回ご家族様に便りを出したり、3か月に1回訪問美容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせたおやつ、お茶などを用意し、楽しみになるよう工夫をしている。食事のメニューは、本社管理栄養士の管理のもと、給食業者から食材が配達され、誰が作っても変わらぬ味を提供している。敬老の日、クリスマスなどは利用者様の意向を聞きながら特別メニューを選び提供している。	食材配送業者から食材が届き、職員が調理している。コロナ禍で食事が楽しみになるように利用者の希望を聞き、イベント食として利用者と共に手作りおやつを作ったり、敬老会では選択したメニューで祝い膳にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、チェック表に記入し栄養カロリー、水分摂取量を管理している。季節に合わせた飲み物や食べ物を工夫している。一口大、超刻み食、ミキサー食と個々に合わせた形態にて提供している。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と食後は必ず口腔ケアを行い、清潔を保っている。見守り、一部介助、全介助の方とご本人に合わせた対応を行っている。必要な方は洗口液を使用し、義歯使用者は、入れ歯洗浄剤を使用。毎日洗浄、消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、オムツ対応の方も立位可能であれば、トイレ誘導をし、自立支援を行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、ちょっとした動きなど見逃さず、キャッチして、トイレに誘導し排泄の失敗を回避している。	排泄チェック表に記録し自立者は見守り、排せつパターンを把握して誘導したり、手引きで誘導する利用者もいる。夜間もポータブルトイレはできるだけ使用せず支援している。会議では排泄支援について意見交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便の色、形状を知り、個々に応じた排泄コントロールを設定している。排泄チェック表を活用し、看護師指示のもと、便秘予防の対応をしている。おやつに果物を取り入れたり、毎日、牛乳を提供し工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴が目安ではあるが、希望に沿って対応している。入浴時には、ご本人の話したい事や歌いたい歌を歌い、職員とコミュニケーションをはかっている。汚染時は、シャワー浴にて清潔を保っている。	週に2回の入浴を基本とし、声かけに工夫しながら、利用者個々の希望・体調に合わせた柔軟な対応を心掛けている。入浴時には職員と会話をしたり歌を歌ったりコミュニケーションを図り、入浴剤やゆずを使用したりお湯の温度も気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、ご本人のペースにて休んで頂いている。就薬提供の時間は決まっているも、皆様の状況に合わせている。ベッドからの転落、怪我回避に床にマットなど用い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報など一覧にし、業務日報に挟み、職員各自が目を通して印を捺し周知している。事務所内に設置してある投薬ポケットに区分し、飲み残しの無いよう心がけ、服薬時には、日付、名前など大きな声にて読み上げ、周りの職員と共有し、誤薬のトラブルを回避している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯干し、たたみ、片付け、お皿拭きなどできる範囲で行って頂いている。コロナ禍で、現在控えているが、職員と共に買い物など出かけ生活している実感を味わって頂いている。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や本人の希望、外出は可能な限り関わりを持って頂いている。衣類の買物、ティッシュ、アンパンなど職員と共に買い物に出かけられるよう支援している。コロナ禍の為、頻度は減っているが、ご家族様のご要望により出かけたときは、1週間居室で様子観察を怠らないように職員皆に周知した。	コロナ前には施設の周りは商業施設が充実しているので歩いて職員と買い物に出かけたり、家族も外食や外出に連れ出してくれた。法事や結婚式に参加された利用者がいたが、現在は感染拡大のため、外出は自粛し、感染対策を取りながら天気の良い日に施設の周りを散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、貴重品や現金は紛失の恐れが高いのでお持ち頂くことは控えてもらっているが、紛失してもかまわない程度の所持金は、家族の同意のうえで、ご本人が安心するのであればお持ち頂くこともしている。買い物の際は、施設の立替金を持参してレジにて支払う行為を職員同行の下、一緒に行っている。現在、コロナ禍にて控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で文章を書くことができる人は少ないが、レターセット等は準備している。電話をしたいと希望があれば、ご家族に支障ない時間などを調整してお話をして頂いている。暑中見舞いや年賀状をご家族に出したり、ご要望に応じて、出したい時に、葉書に代筆し、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの窓、天井、階段などには、季節の四季が感じられるような飾りつけを行い、四季の訪れを職員と一緒に楽しんで頂いている。廊下には、日頃作成している作品や、習字を掲示して楽しんでもらっている。また、個々の顔写真を掲示して自分がここに住んでいることを習慣的に感じてもらうようにしている。	居間、食堂は南に面していて明るく、通りに面した窓には行きかう人にも楽しんでもらえる季節の作品が貼ってある。利用者は居間で過ごすことが多く、季節の飾りを職員と一緒に作ったり、テレビをみたり、歌を歌ったりして思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いグループを同じテーブルにし、食事やおやつなど摂って頂いている。他者との関わりと好まない利用者様にはタイミングを見計らいながら声をかけ職員と会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、使い慣れたもの、なくてはならないものなど用意してもらい、居室に置いている。家族写真など飾り、孤独感を極力持たない様、環境に配慮している。	居室には使い込んだタンスや衣装ケースが置かれ壁には家族の写真やここで作った作品が貼られていた。入居前に持ち込まれたテレビもあるが居間で見る人が多い。寝たきりの利用者の戸を開け、居間の様子がわかるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子生活をされていた方が、手引きにて歩行できるように変化し、ご本人の「まだできる。」という想いに添い、達成感を持って頂くよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100101		
法人名	一般社団法人のどか		
事業所名	グループホームのどかの家沼津		
所在地	静岡県沼津市大塚1127-3		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2291100101-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 3 年 12 月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症(コロナ)禍において、ご家族やボランティアの方々との関わりが制限され、寂しい思いをされている利用者様達の「あなたに伝えるメッセージ」と称し笑顔の葉書を送らせて頂いた。2枚の画用紙に「しあわせ」「まあまあ」とそれぞれ書き、利用者様本人に選んで頂くと、一名以外「しあわせ」を持たれ、ご家族に気持ちを伝えました。また、介護予防運動指導員の指導のもと、ADL低下及びリスクを最小限に抑えつつ、車椅子から手引き歩行移行に力を入れた。行事や壁面など工夫して、小さいながらも四季を感じ得よう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人・そっと寄り添う」の理念を、誰もが目にするところに掲げ、勤務職員は、申し送りの際、唱和し、一日の業務にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、施設前を通る人々に挨拶をし、楽しみながら交流を図っている。敬老会、文化祭など欠かす事なく参加している。現在、コロナ禍の為、行事が中止となり参加できないが、文化祭、出品に向けて少しづつ制作を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校生徒を受け入れ、学習の場として提供している。生徒に限らず、先生も10年目の職場研修に提供し、施設の果たしている役割や職種に理解を深めてもらっている。現在、コロナ禍の為交流を控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の場で、ご指導頂いた案件は、即施設のケア会議で話し合い改善、質の向上に努めている。また、クレームがあった際も本部をも巻き込み情報の開示をしている。運営推進会議は、コロナ禍の現在、聞き取り会議にて行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の資料を届けながら、担当職員と交流を図り、わからないことは、いつでも聞くことができる関係が築かれている。地域包括支援センターや他事業所との交流、指導を頂いている。近隣CM、事業所との意見交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の出入り口に鈴をつけ、常時開放されている。施設内は、身体拘束ゼロを掲示し、勉強会でも拘束・虐待について学び、月目標の振り返りと共に、スピーチロックなど振り返りを行い、各自、自己分析し報告している。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の課題に設け、月目標にあげ、一人一人職員に自覚してもらい、毎月できているか振り返りを行っている。NGワード、スピーチロックなどお互いに注意し合える環境を作っている。何故を考え、職員の想いを受け止め、連携、協力の中、利用者様中心にケアを行えるように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度など研修に参加した資料を基に、またDVDを基に勉強会で取り入れている。必要な利用者様は活用してきた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、管理者、ケアマネジャー、NSが立ち会い、お客様・ご家族様・身元引受人・それに準ずる方に同席頂き、十分な時間を設けて理解して頂いている。また、疑問点や困りごとの対応は、相談窓口にて説明し問題解決に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでは要望、意見をお聞きし、結果も開示している。又、年に1回お客様満足度アンケートをご家族様に送り、無記名にて本部で集め、良い点や悪い点など聞き取り、くつたのない意見をお聞きし、改善、励みとし現場に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のケアミーティングにて意見や疑問点を述べる機会を設けている。全職員のアンケートの実施や年2回の人事考課の際意見を述べる欄などを設けている。また管理者は運営本部に向け職員の相談ごとなど報告を入れ、答えをもらっている。職員一人一人と管理者と面談を行い想いを傾聴し反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、仕事における努力や提案、それによってもたされた成果など自己アピールの機会を設けている。変化する家庭環境・身体状況に応じて、就業形態の変更の申請など働きやすい環境整備は整っている。現状、職員ファーストを掲げ、今年度から誕生日に花束、10年以上勤務者に旅行券を贈呈している。誕生日、年始リフレッシュ休暇など新たに設けられた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時研修、1年・2年目研修、リーダー研修、管理者研修など本社主催の研修を年間で計画しており、必要に応じて外部研修も積極的に参加できる体制は整っている。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加しネットワーク作りを行っている。現在、リモート会議、メールなど活用している。また、事業所の運営推進会議などの議事録に目を通し、お互いの事業所での情報交換を行い、介護スキル向上(気づき)に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様の要望、意向を受け、ケアプランの原案を作成している。ご本人を追い、ケア会議など職員間で話し合い、ご本人の意向を反映できるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人・ご家族様の要望を受けつつ、ケアプランの原案を作成している。共に生活しながら見直し、利用者様の意向を反映できるプランづくりを心がけている。ご家族様より生活歴や趣味などお聞きし施設での生活に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にフェースシート・入居前情報・面談記録を参考に、入居時に受ける不安や家族の心配事を解決できるようケアプランに取り入れ原案を作成している。共感と傾聴を重視したケアに取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞き取りながら、実現できる体制を整えている。また運営理念にもあげているように「共に歩む」を心がけ、一緒に洗濯をたたんだり、器を拭いたり、リネンをセットしたり行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	けしてどんな状況であろうとも家族の面会を止めることはせず、利用者様に孤独を感じさせないよう努めている。家族は、利用者様にとってかけがいのないものであることをご家族様に理解していただき、ご家族、職員と些細なことも共有しお互いに支え合っている。コロナ禍において、お墓参り、結婚式などご家族の要望に添い、その後のサポートも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて中止となったが、地域の敬老会や文化祭など参加して頂いたり、ご家族から要望がない限り、面会の制限は設けず、どなたでもご本人に会いに来れる環境になっている。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	些細なトラブルは職員が間に入り、問題解決に努めている。物作りや大勢で行うレクリエーションなど提供し、利用者様同士が関わり、支え合うよう支援している。生活の場なので、コミュニケーション(あいさつ)などきっかけ作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今まで通り、死亡退去されたご家族様には、ホームでの日々の生活の写真を添えたり、グリーフケアも含めて丁寧にお話を伺っている。病気による退去の場合は、面会や退去先の支援を行うこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話のできる利用者様の要望はなるべく受け入れ、日常生活の中でご本人に決めて頂き、柔軟に対応している。発語や自分の想いを伝えられない利用者にはアイコンタクトやしぐさなどから想いをくみ取るように努力し、ご家族様や職員から情報を収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より担当ケアマネやご家族からの聞き取りをさせていただきながら、趣味、嗜好の把握に努めている。時にふれ昔の暮らしなど聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化や発した言葉など個々の介護記録に残し、業務日報や気づきノートに記録し、職員の情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を毎月開催し、看護師も交え、現状の問題点をあぶり出し、個々のケアプランの確認、モニタリングに反映させている。ご本人、ご家族様に説明し、介護計画は個々のファイルに入れ、職員が確認できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子発語など個人の介護記録に残し、特記事項など、業務日報や気づきノートに記録し、情報の共有に努めている。1回/月のケア会議にあげ介護計画の見直しをしている。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに固定せず、柔軟に変わる変化を見逃さず、ケア会議に持ち寄り、見直しをし、支援に結びつけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、今回はあまり協力を得ることはできなかったが、良い天気の日など他者との関りを最小限にし、外出などの支援を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による毎月2回の往診を受け、健康管理、病気などの早期発見に努めている。個別往診時、体調の変化のある方もすぐに対応していただき、Dr.に適切な指導を頂いている。必要に応じて、施設看護師が同行し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎朝同じ時間帯にバイタル測定を行い、看護師は申し送りなどで変化など確認し、その旨HPNS.及びDr.に報告を入れて情報を共有し、指示を現場に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は施設での情報を提供し、連携室と密に連絡を取り合い、病棟NS.から看護師がTELなどで状況報告を受け、退院前カンファレンスに参加できる時は参加している。状況説明、注意事項、見通し等聞き情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会社共有のターミナルケアマニュアルを活用し、早い段階から協力医、家族と話をもち連携をとっている。職員は看取りやグリーフケアなど勉強会を通し学んでいる。ご家族様には、気持ちの変化に応じてその都度柔軟に対応していく旨をターミナル宣言書を頂く際、言葉を添えて納得頂いている。ターミナル宣言書は年に1回確認をご家族様、ご本人に行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社共有の急変・事故対策マニュアルが職員全員だれもが目にできるところに置いてあり、看護師、管理者、リーダーとだれもが対応できるよう実践力を身に付けている。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の防災訓練、風水害の訓練を行い、GHに近い職員より連絡網を作成し、早期対応を心がけている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時、職員全員に個人情報に関する取り扱いの同意書を説明、サインをもらっている。介助中の声かけ、特に排泄・入浴時には個人のプライバシーを損ねない関わりを持つように職員に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の流れの中、体操・レクリエーションなどある程度予定は立てているが、決定は個人に任せている。ご本人の希望など伺い要望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな行事などや体操・物づくりは、極力共に参加して頂くが、もらえるように関わりをもつものの、個人のペースを尊重して希望、拒否があれば、要望をかなえられるような支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで着目されていたお気に入りの衣類を持参して頂き、入浴時に何を着るかを一緒に考え用意をしている。起床時、洗面後、髪に各自櫛を入れて頂く。化粧などし、年に2回ご家族様に便りを出したり、3か月に1回訪問美容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節にあわせたおやつ、お菓子などを考え、楽しみになるよう工夫をしている。食事のメニューは、本社管理栄養士の管理のもと、給食業者から食材が配達され、誰が作っても変わらぬ味を提供している。敬老の日、クリスマスなどは利用者様の意向を聞きながら特別メニューを選び提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、チェック表に記入し栄養カロリー、水分摂取量を管理している。季節に合わせた飲み物や食べ物を工夫している。一口大、超刻み食、ミキサー食と個々に合わせた形態にて提供している。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕と食後は必ず口腔ケアを行い、清潔を保っている。見守り、一部介助、全介助の方とご本人に合わせた対応を行っている。必要な方は洗口液を使用し、義歯使用者は、入れ歯洗浄剤を使用。毎日洗浄、消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、オムツ対応の方も立位可能であれば、トイレ誘導をし、自立支援を行っている。一人一人の排泄パターンを把握し、ちょっとした動きなど見逃さず、キャッチして、トイレに誘導し排泄の失敗を回避している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便の色、形状を知り、個々に応じた排泄コントロールを設定している。排泄チェック表を活用し、看護師指示のもと、便秘予防の対応をしている。おやつに果物を取り入れたり、毎日、牛乳を提供し工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回の入浴が目安ではあるが、希望に沿って対応している。入浴時には、ご本人の話したい事や歌いたい歌を歌い、職員とコミュニケーションをはかっている。汚染時は、シャワー浴にて清潔を保っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、ご本人のペースにて休んで頂いている。就業提供の時間は決まっているも、皆様の状況に合わせている。ベッドからの転落、怪我回避に床にマットなど用い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報など一覽にし、業務日報に挟み、職員各自が目を通して印を捺し周知している。事務所内に設置してある投薬ポケットに区分し、飲み残しの無いよう心がけ、服薬時には、日付、名前など大きな声にて読み上げ、周りの職員と共有し、誤薬のトラブルを回避している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯干し、たたみ、片付け、お皿拭きなどできる範囲で行って頂いている。コロナ禍で、現在控えているが、職員と共に買い物など出かけ生活している実感を味わって頂いている。		

静岡県(グループホームのどかの家沼津)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人との外食、外泊は可能な限り関わりを持って頂いている。衣類の買物、ティッシュ、アンパンなど職員と共に買い物に出かけられるよう支援している。コロナ禍の為、頻度は減っているが、ご家族様のご要望により出かけたときは、1週間居室で様子観察を怠らないように職員皆に周知した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、貴重品や現金は紛失の恐れが高いのでお持ち頂くことは控えてもらっているが、紛失してもかまわない程度の所持金は、家族の同意のうえで、ご本人が安心するのであればお持ち頂くこともしている。買い物の際は、施設の立替金を持参してレジにて支払う行為を職員同行の下、一緒に行っている。現在、コロナ禍にて控えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で文章を書くことができる人は少ないが、レターセット等は準備している。電話をしたいと希望があれば、ご家族に支障ない時間などを調整してお話をしている。暑中見舞いや年賀状をご家族に出したり、ご要望に応じて、出したい時に、葉書に代筆し、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの窓、天井、階段などには、季節の四季が感じられるような飾りつけを行い、四季の訪れを職員と一緒に楽しんで頂いている。廊下には、日頃作成している作品や、習字を掲示して楽しんでもらっている。また、個々の顔写真を掲示して自分がここに住んでいることを習慣的に感じてもらうようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良いグループを同じテーブルにし、食事やおやつなど摂って頂いている。他者との関りと好まない利用者様にはタイミングを見計らいながら声をかけ職員と会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、使い慣れたもの、なくてはならないものなど用意してもらい、居室に置いている。家族写真など飾り、孤独感を極力持たない様、環境に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子生活をされていた方が、手引きにて歩行できるように変化し、ご本人の「まだできる。」という想いに添い、達成感を持って頂くよう支援している。		